

## 特集：入学

## 生物学類新入生の皆さんへ

濱 健夫（筑波大学 生命環境学群生物学類長）

生物学類へようこそ。教職員、在学生を代表してお祝いを申し上げます。

キャンパスには3月の大震災の影響をまだ見る事ができます。でも、新しく生物学類に加わった皆さんの笑顔で、我々の沈みがちだった気持ちも高まってきています。これからの大学生活が充実したものとなるよう、期待しています。

ご存知のように、生物学は前世紀の半ばから大きな進歩を遂げました。特に、DNAの構造と機能の解明により、生命活動の理解は飛躍的に進展したといつて良いでしょう。この分子レベルからの生命現象の解明は現在でも速いスピードで進行しているのは、皆さんもご存知の通りです。また、一方で、地球温暖化など地球環境の維持、変化における、陸上、海洋お生物活動の役割の解明も進んでいます。我々人類を含む生物、そして地球の現在から未来における生物学の重要性は、これまで以上に増していくものと思います。生物学類では60名の専任教員が、分子レベルから地球レベルまで、広範な現象を対象として教育、研究を進めています。学類の教育を通して、皆さんが現在もっている生物学への興味を更に深め、また、新たな興味を見いだして欲しいと思います。

生物学類の教育は、様々な特徴を持っています。その一つが、専門科目の一部を英語化です。これは、教育の国際化を強く意識したもので、学類の教育にとって、大きな変化です。現在、生物学類を卒業する学生の8割以上は大学院へと進学し、研究生活を送ることになります。このような状況を踏まえ、研究に必要な英語力を、学類の時代に身につけて欲しい、という考えから導入したものです。英語論文を読む、書くことに加えて、現在は、外国人研究者との直接の交流の機会が非常に増加しました。つまり、「聞くこと」、「話すこと」が必須のものとなってきているのです。本年度は導入の初年度となりますので、問題点も出てく

るものと思います。しかし、改善を繰り返しながら、英語教育を軌道に乗せて行きます。この他にも、学類生の英語力を高めるためのカリキュラムを考えています。語学力の上達は、皆さん自身の向上心が基本です。今は英語が苦手、と言う方も、積極的な取り組みを期待しています。

また、生物学類では、授業・実験・実習による学生の指導の他にも、様々な活動を行っています。全国の小・中・高校生の研究をサポートし、未来の科学者を育てる「SS (Super Science) リーグ」、「生物学オリンピック予選」等、全学でも最も活発といつても良いでしょう。これらの行事は、皆さん学生の協力なくして進めることは困難です。皆さんの協力をお願いすることが多くあると思いますが、積極的に参加して下さい。担当の先生方とも親しくなるチャンスでもあります。

さて、大学生活は勉強ばかりではありません。大学へ入学したら、勉強以外にもこれをやってみよう、と思いつけてきた人も多いことでしょう。勉強への集中を高めるためにも、勉強以外のことに打ち込むことは意味あることだと思います。また、そのような活動は、友人関係も広げてくれる事になるでしょう。でも、学生の基本は勉強である事を忘れないで下さい。サークル活動に熱中する余り、授業を欠席してしまうようになると、本末転倒です。

これから4年間、大学生活の全てがスムーズに進むことはないでしょう。大なり小なりの悩みを抱え、時には沈んだ気持ちが続く時もあるかもしれません。でも、人や社会と関わることにより、気持ちが上がり下がりすることは当然生ずることです。そんな時は、是非、担任などの先生方に相談してください。皆さんの不安を解消すべく、サポートして行きたいと思います。

それでは、健康に気をつけて、充実した生活を送って下さい。

Contributed by Takeo Hama, Received September 12, 2011.